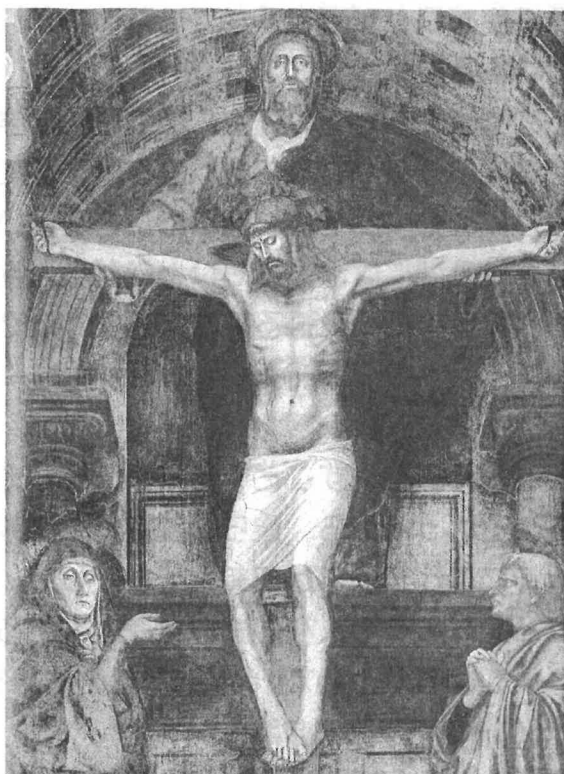


2008年(平成20) 5月

カルメル
霊性センターニュース



三位一体: マザッチョ

232号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第一巻

第三章 真理を知る

5 善に重きを置く

議論をする時ほどの熱心さを、悪を根絶し善をおこなうために用いるなら、人々のなかにこれほどの罪悪とつまずき、そして修道院のなかでこれほどの弛緩を見ることはないであろう、確かに審判の日には、私たちが何を讀んだかよりも、何をおこなったかを尋ねられるであろう。また、どれほど立派に話すことができるかではなく、どれほど信仰をもって生きたかを問われるであろう。

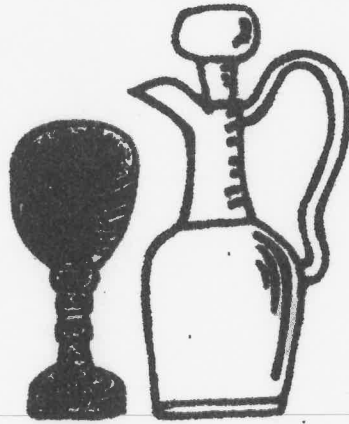
あなたが知っていたあの学者たちやあの先生たちは生前、学識を称賛されていたが、今はどこにいるのかを私に告げなさい。すでに彼らの地位にはほかの人が座り、そしておそらく彼らのことを思い出すこともないであろう。生きている間には、彼らもひとかどの人物のように見えていたが、今はもう彼らのことを語る者さえいないのである。

6 まことの知恵者

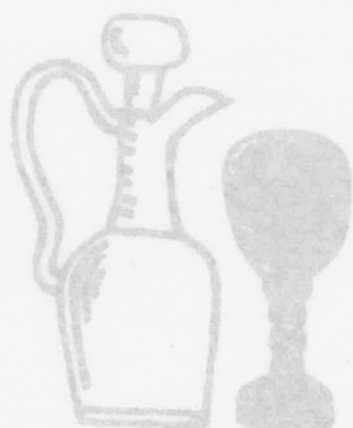
この世の光栄は、なんと早く影を消すことであろう！彼らの生活がその学識にふさわしいものであったなら、彼らの読書も、研究も、役に立ったことであろう。神に奉仕することをおろそかにして、空しい学問を追ったために、どんなに多くの人々が滅びたことであろう！謙虚になるよりも偉大なものになろうとして、「自分たちの妄想を追い、そしてふみ迷ったのだ」(ローマ1・21 参照)。

大いなる愛をもつ人こそ偉大な人である。自分を小さな者だと考え、最高の名誉さえも、空しいものだと思う人こそ、ほんとうに偉大な人である。キリストを得るために、地上のものをすべて、塵芥だと思う人こそ、まことに賢明な人である(フィリピ3・8 参照)。自分の意思を捨てて、神のみ旨をおこなう人こそ、まことの知恵者である。

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd
——現代の十字架の聖ヨハネ—— (17)



おお、イエス

私は あなたのように

聖霊の支配のもとに

自分を置きたい

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

聖霊は多くの方々に少し敬遠されているかもしれません。聖霊降臨の祝日を前に(5月11日)「聖霊は私の友」と言っていた幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父の言葉を少し紹介したいと思います。

聖霊は私たちのうちに住んでおられる。私たちの世界の中に住み、ご自分のいのちを現される。その恵みによって、私たち一人ひとりに呼びかけられ、私たちを導こうとされ、ご自身を現される。

私たちのうちに聖霊は現存され、働かれる。聖霊はかまど、絶え間なくその光線を送り続ける太陽、湧き出る泉。

聖霊は、私たちの霊魂のいのち、私たちの霊魂の偉大な現実である。

聖霊は教会の魂、その動力、精神、光である。霊魂を生き生きさせるのは聖霊であって、私たちは聖霊に捕らえられるに任せながらでなければ、聖霊の働きのうちに入ることはできない。

愛のかまどである聖霊のうちに

私を沈め、

私を清め、変容させてください!

私を沈め、

そこに絶えずとどまらせてください!

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(35)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

見ることは祈ること

内的生活の始めにおいて、最も重要で、最も無視されている要素の一つは、現実に応答する能力、ごく普通の事柄の中に価値や美を見出す能力です。私たちはこれらのものから自分を引き離すために、これらのものを見ません。被造物の中に神の美を見出すことに失敗し、外面的で一時的な、過ぎ去り行く美にとらわれてしまうと、それらの被造物の奴隷になってしまいます。「見ないのに信じる人は幸いである」(ヨハ 20:29)。キリストのこの言葉は、被造物や他者の中に神を見るようにと、私たちを招いています。神は私たちの感覚には近寄りがたい方ですが、その栄光は、被造物の秘義や美しさを通して、絶えず私たちの目の前にあります(出 33:18-23)。「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す」(詩 19:1)。この言葉によって、詩篇作者は、被造物そのものの現実の中に刻み込まれている創造主のすばらしい業に関する「沈黙の解説」を呼び覚まします。私たちも、詩篇作者と同じような体験を持つよう、また同じような不思議を体験するよう招かれています。「人は、人間の種々の諸能力、すなわち感嘆し、理解し、観想し、個人的判断を下す能力、宗教的、道徳的、社会的センスを深める能力を発展させるよう人間精神の向上を目指さなくてはならない」(現代世界憲章, 59)。私たちの霊的生活において重要なことは、神を見ようと望むことではなくて、人生のあるゆる瞬間において、神を熱い思いで愛そうと望むことです。私たちはある物を見ることができても、それを愛さないかもしれません。逆にある物を愛することができても、それを見ていないかもしれません。これが、祈りのために視覚を訓練する理由です。私たちは、被造物の中に神の足跡を見、神を賛美します。「神は人間が見るようには見ない。人は容姿を見るが、主は心を見る」(1サム 16:7)。

聖ペテロは、「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉で言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています」(1ペト 1:8)と言いながら、私たちを励ましています。このことの方が、私たちの肉眼で「キリストを見る」ことを望む以上に価値のあることなのです。

訓練

祈りのために坐ったならば、快適な姿勢を取り、目を静かに閉じてください。そして目に注意を向け始めてください。普通、目を閉じると、さまざまなイメージがすぐに私たちの頭をよぎります。教会にいるならば、十字架像や御像や祭壇や壁などが、私たちの心のスクリーンに浮かび上がります。その後で、より深いイメージーションが私たちの心を満たします。これらの散乱するイメージーションに打ち克つために、自分のまぶたをゆっくり見つめるようにしてください。数秒間、うまくいかないかもしれません。もしそうであれば、目を開いて、もう一度静かに目を閉じてください。まぶたを通してほの暗い灯りが見えるかもしれませんし、見えないかもしれません。教会の中の光がほの暗い場合、この光を体験するために、時間がかかりかかるとでしょう。目の前に灯りのついた蠟燭がある場合は、簡単にこれはできます。蠟燭の炎がゆらめいたり、踊ったりすると、まぶたを通して光を感じる事が容易にできます。

まぶたを通して光を感じることに成功すると、必ず、頭はさまざまなイメージを生み出すのをやめます。まぶたの上の灯りの強さに、かなりの程度差があるのに気づくかもしれません。それは、私たちが考えるほど、一様ではありません。すべての点が必要しも同じように照らされてはいません。精神的なイメージを生み出さずに、あなたが見ているものだけを見るようにしてください。すべての考えを無視してください。それらをやさしく頭の外に出し、体の感覚やまぶたの上の光の感覚にだけとどまってください。まぶたを閉じたまま、目をすこし動かしてください。その場の沈黙の雰囲気や目の上の繊細な感覚を妨げずに、目を時計回りに、また反対方向に動かしてください。そしてすべての感覚に注意をむけてください。この訓練は、他の感覚の集中力訓練のように、リラックスさせるものではないかもしれません。けれども、この訓練は、祈っている間、たくさんのイメージーションや空想によって妨げられる場合、とても有益です。この訓練が他の身体的集中力の訓練と共に行われるならば、それは、祈りの静けさと穏やかさを引き伸ばすのに役立つことでしょう。

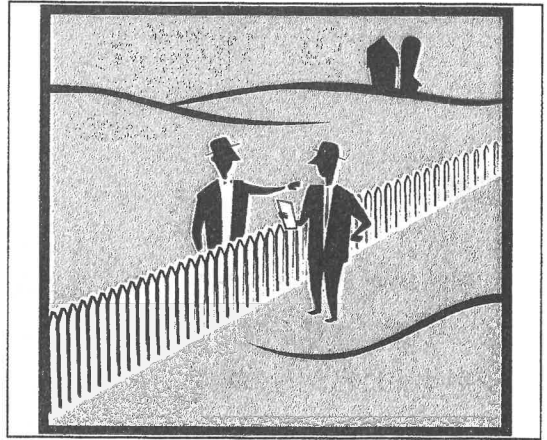
(続)

九里 彰訳

ヘンリ・ナーウエンの

『旅路の糧』

(110)



私の隣人とは誰か

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタ 22:38) と福音は告げます。けれども、私の隣人とは誰でしょうか。私たちはしばしば次のように言うことで、この問いに答えます。「私の隣人とは、この地上と一緒に住んでいるすべての人々、特に病気の人、飢えている人、死に直面している人、必要な物にこと欠いているすべての人々のことです」と。しかし、これはイエスの言っていることではありません。イエスが「私の隣人とは誰か」と言う問いに答えて、良きサマリア人のたとえ(ルカ 10:29-37 参照)を話された時、こうたずねて話を終えます。

「さて、あなたは…、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」。隣人とは、イエスが明らかにしていることですが、服をはぎ取られ、なぐられ、半殺しになって道端に横たわっている哀れな人ではなく、道を横切って近寄り、「傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱をした」サマリア人なのです。私の隣人とは、私のために道を横切り、近寄ってくれる人なのです。(0720)

神の完全な愛の反映

神の私たちへの愛は永遠です。それは、神の私たちへの愛は、私たちが生まれる前から存在し、私たちが死んだ後も存在するということを意味しています。それは永遠の愛であり、その中に私たちは抱かれています。霊的生活を生きるとは、私たちに對するその永遠の愛を求めるよう招かれているということです。それによって、私たちはこの世の愛を、両親や兄弟や姉妹や先生や友人や伴侶や私たちの人生の一部となったすべての人に対する愛を、神の永遠の愛の反映、こだまとして生きることができるのです。どのような父親も母親も、自分の子供を完全に愛することはできません。どのような夫も妻も、無条件的な愛で互いを愛することはできません。どこか傷ついていない人間の愛というものには存在しないのです。

傷ついた愛が、私たちに可能な唯一の愛であるならば、私たちは簡単に絶望の淵へ落ち込むことでしょう。けれども、私たちがこの傷ついた愛を、神の完全で無条件的な愛の部分的反映として生きることができるならば、私たちは互いに限界を赦し合い、互いに差し出さなくてはならない愛を共に享受することができるのです。(0304)

主の昇天 マタイ 28, 16 - 20

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」(マタイ 28, 18)。

この福音には、一つ気になる言葉があります。「イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた」との指摘です。実に、十一人の弟子たちの中に、この期に及んでもまだ疑う者もいたと言うのです。何を、疑ったのでしょうか。わたしたち罪人の救いのために、十字架の死さえも受け入れてくださったイエスの愛を疑ったというべきではないかと思えます。

聖書は歴史の始まりにも、やはり、神の愛への疑いがあったと、言っています。エデンの園に人祖アダムとエバが置かれたとき、神は、彼らに一つの禁止をしました。「園のすべての木からとって食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べではなさい」。彼らは、この禁止を与えた神の心が見えません、むしろ、疑ったのです。彼らは、自分ではこの禁止の理由が見通せない、しかし、神のお言葉だから、きっと愛に満ちた、わたしたちを本当の生命に導くものだ、神の言葉に信頼していたらよかったです。しかし、悪魔の誘惑のために、信頼するよりは、神の愛の真意を疑うことを選びました。このようにして、神への無条件の信頼という樂園から自らを追放し、自分の力では、二度と、戻れなくなってしまったのです。「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、ご自分の前で聖なるもの、汚れのないものにしようと、キリストにおいてお選びになりました」(177頁 1, 4)。この神の愛を疑い、この愛から自らを追放された者としてしまったのです。

しかし、御父は、御独り子をわたしたちの一人、人間として世に送り、このイエス・キリストは、「なぜ」との問いのうちにも、十字架の死に至るまで御父の愛への信頼を貫き、実に、ご自分が「神の愛する子」であることを示してくださいました。こうして、アダムとエバが不信頼、疑いのために自分自身を追放することになった樂園への門をイエスは、人類のために再び開いたのです。イエスの愛の力強さ、権能は、いかなる「なぜ」よりも強く、むしろ、それを、新しい愛の飛躍台とする。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」。イエスの御昇天、それは、人間が罪をもって混乱させた神の愛の計画が、回復された、単に元に戻されただけでなく、それ以上にすばらしいものとして完成されたことを、思い起こさせているのです。

ルカ 渡辺幹夫

聖霊降臨の主日

聖霊を受けなさい。 (ヨハネ 20 : 19 ~ 23)

聖霊降臨の祭日に、私たちは使徒たちに聖霊がくださったことをお祝いします。私たちはまた教会の誕生日を祝います。聖霊がいらしたことが教会の存在を可能にしました。私たちの中にお出でになる聖霊の現存と働きによって、教会は存在し続けています。

聖アウグスチヌスは、聖霊降臨について次のように語っています。「この日を喜びで保ちなさい、霊の自由のうちに祝いなさい、何故なら聖霊がいらした日に示されたものがあなた方の中に満たされているからです」。きょう私たちが自分自身の中とか、自分のまわりや教会にいる人達を眺めてみると、神の意志に気づき、全宇宙に対する神のご計画が、明確で完全な実現にむかって、徐々に展開していることに気づきます。今日の朗読は、このメッセージが私たちに伝わることを望んでいます。

聖ルカは、風が吹いているように、火が燃えているように、新しい言語が心に直接語りかけるように、教会が形づくられていく様子を描いています。一方ヨハネは、霊の到来を単純で静かな方法でより分かりやすく、合理的な言葉で「イエスは彼らに息を吹きかけて言われた：『聖霊を受けなさい。あなたたちがゆるせば、だれの罪でもゆるされ……』」と語っています。

風や、火や、舌は、ゆるしを通しての世界の秩序の変革や全変化を指し示しています。聖霊の到来は、罪のゆるしの始まりです。教会は全ての人々に対する罪のゆるしを確実にするために生まれました。様々な秘蹟における聖霊の働きを通して、教会は全人類にキリストによる救済の恵みを与えてくれます。

十字架にかかり、復活された主が使徒たちに現われたとき、キリストのメッセージは人をゆるす愛、和解、新しい関係……新しい生命と復活の経験のメッセージでした。平和は復活された主の贈りものであり、教会が今の時代の人々に与える贈りものです。私たちが家族の中に、隣人といっしょに、教会のイメージを真に表すとき、世界に対する神のご計画は早まります。今日、聖霊が私たちの心を平和の贈りもので満たし、私たちが今の時代の人々に教会の真の姿を表すことができますように。

(Sr. Paulina)

三位一体の祭日 ヨハネ 3, 16-18

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハネ 3, 16)。

福音記者ヨハネは、神の愛にのみ起因する救いのキリスト教的使信すべてを、永久に記念すべきこの一節に納めています。

「神は世を愛された」。「ヨハネによる福音」で「世」は、「言」において創造された被造界すべてを、また、ある場合には、神に敵対する悪の勢力を意味します。また、自分では脱出不可能な深淵に落ち込み贖いを必要とする人類を指しています。万物の創造そのものが、自力で発生したのではなく、御父に対面する「言」によって無から存在に呼び出されました(参照ヨハネ 1, 1-3)。万物は、「言」と共に御父に対面し、「新しい天と新しい地」(黙示録 21, 1)にされるまでますます完成されてゆくはずのものでした。しかし、人間の反逆の罪によって自力では抜け出せない閉塞状況の中に陥ったのです。神はこのような世を見捨てず、神だけが知っておられる愛で愛されます。「神は世を愛された」、その愛は、人間の知恵、想像力、言語で表現できる限界をはるかに超えたもの、神だけが発意され、実行されるものです。「世」を贖いだすために「その独り子をお与えになった」、これが、神の愛が取られた具現化の道です。「お与えになった」、それは、独り子の受肉で終わるのではなく、十字架の上の死を頂点としていました。「神は、独り子を、…わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」(参照 1 ヨハネ 4, 9-10)。「イエスは、…『成し遂げられた』と言い、頭を垂れて息を引き取られた」(ヨハネ 19, 30)。「息を引き取られた」、むしろ、「息を余すところなく渡された」と訳出すべてきでしょう。これは、復活の時の「彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。』」とのお言葉に連なります。

神の愛のいのちの秘儀、御父と御子と聖霊の秘儀を、わたしたち人間は、想像力を使って思いつくことも、知性を駆使して推理することもできません。ただ、わたしたちを解放するために神の愛が実行なさったことを通して、この神の救いの業を解き明かす啓示の言葉を通して、見えてくるのです。この神のいのちの秘儀に、わたしたちは信じることによってのみ入ってゆけます。そして、今日のこの世のいのちを御子と共に聖霊の息吹の内に御父に向かって力いっぱい生きてゆけます。

ルカ渡辺幹夫

キリストの聖体の祭日

「わたしは天から降って来た生きたパンである。」(ヨハネ6,51-58)

私たちがこの世でいただいている最も貴重な贈り物は命そのものです。命には四つの局面があります。身体的、知的、感情的そして霊的な局面です。停滞、発展、死と衰退はこの四つの局面すべてに影響します。イエスが、「わたしはあなたがたにいのちを与えるためにきた。」と言われたときイエスは永遠に生きる真のいのちを意味しておられます。

イエスが教えてくださったいのちについての大切な教えの一つは、自分のいのちを与えた時だけこのいのちを得ることが出来るということです。イエスはおっしゃいました。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者はそれを失うが、この世で自分の命を憎む人はそれを保って永遠の命に至る。」(ヨハネ12,24-25) このイエスのみことばは「少なく与えれば与えるほど、多くを得る」という現代社会の一般的な信条の逆をいくものです。私たちが心から望んでいる、人生の最も価値あるもの—愛、平和、喜び、幸せ、意義—を得るためには、この一般的な信条に従うことはできません。「あなたの与える分に応じてあなたは得る。」というイエスの教えに従わなければなりません。

イエスは、このことを最後の晩餐のときに、ご自分の御体と御血を差し出すことによって明らかにしてくださいました。最後の晩餐はイエスが生きておられる間に語り、行われたこと全ての頂点でした。今日の典礼は、私たちに、イエスがご自分のいのちを与えるために行われたことの全てを、特別にイエスの御体と御血の奉献を思い起こさせます。御体と御血はこの世を救うためのイエスのご生涯の全てを示しています。

聖体祭儀は記念の食事です。それはイエスが私たちのためにして下さったすべてのことを私たちに思い起こさせますから。イエスのいのちの犠牲ですから、それは犠牲の食事です。私たちはいただいた満ち溢れるお恵みを思い出し、神に感謝をしますから、それは感謝の食事です。私たちがキリストと、又お互い同士とを結び合わせますから、それは一致の食事です。またそれは私たちが身体的に、知的に、感情的に、霊的に強めますから、カナの婚宴の食事とは異なる完全な食事です。

聖体祭儀の儀式はキリスト者に重大な挑戦と義務を感じさせます。各々のキリスト者は単にご聖体を拝領するだけでなく、ご聖体のいのちを生きるよう望まれています。「わたしの記念としてこれを行いなさい。」というイエスのご命令に従って生きることは、イエスのように人を愛し、イエスのように人のことを気遣い、イエスのように憐れみ深くあるべきことを私たちの心に響かせます。

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話(14)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

野うさぎ (3)

野うさぎがエジプト人の中では警戒のシンボルであることを考慮に入れると、これをいろいろ適用することができます。すなわち、野うさぎの問題を「神的な事柄」へと適用できるのです。

けれども、神にすべてをゆだねた人間を讃えている聖テレジアの豊かな考察で、私たちに十分でしょう。聖女は姉妹たちにこう言っています。

聖ヨゼフ修道院の貧しい一人の修道女が、全地や自然の諸要素（訳注：地、水、火、風）の上に支配権を持つようになれるなどとは、すばらしいではありませんか。聖人がたが神の御助けによって自然を思いのままに扱ったのに、何の不思議がありません。火も水も聖マルチノに従いました。聖フランシスコには鳥や魚さえ従い、ほかの多くの聖人がたも同じ力を持っておられました。彼らがこの世のすべてのものの上に支配権をふるったのは、それらを軽蔑するように一心に努力し、また全世界の主にも力の限り、心の底から従ったからこそであるということ明らかです。（『完徳の道』19, 4）

結び：聖女は自然の諸要素（訳注：地、水、火、空気という生物が生息できる環境のこと）について語っています。このこぼれ話の第二話や第一話では、十字架の聖ヨハネは、蛙や小魚などについて語りました。「諸要素」についても語り、各要素の中にあらゆる種類とタイプの生物を「位置づけ」（『霊の賛歌』4, 2）、それぞれを「発生し成長するに適した森や領域に」置いています（同上）。

「自然の要素」や領域や自分の家や人間の住まいなどは、神的なものです。その中で、聖人が長々と説明しているように、すべてのものは成長しなくてはならないのです。アテネのアレオパゴスで聴衆に向かって話したパウロを思い出すことも無駄ではないでしょう。彼は、紀元前6世紀のクノッソスの詩人エピメニデスの言葉を使いながら、こう言っています。神は「私たち一人ひとりから遠く離れてはおられません。私たちは神の内に生き、動き、存在します」（使 17:27-28）と。

典礼では年間主日の第六の叙唱に非常に具体的に、こう言われています。「あなたの内に、私たちは生き、動き、存在しています。この世においては巡礼者である私たちは、あなたの愛について日々試みを受けているばかりでなく、将来の命を先取りし、永遠の復活祭を味わうことを望んでいます。なぜなら私たちは死者の中からイエスを復活させた聖霊の初穂を持っているからです。」

聖霊の現存と力は、自然の要素の内に、私たちが永遠に幸せに生きることができるよう、この世の旅路にいる時から私たちをこのことに慣れさせてくれるのです。魚は水に、人間は神へ。

（続く）

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

19. 幼いイエスの聖テレーズ (1873-1897) — その5

テレーズ・マルタンは、フランスのアランソンで、大変愛情深く敬虔な家庭に生まれた。4人の姉のうち3人は、リジュー・カルメル会における修道生活においても姉妹となった。テレーズは5歳で母親を亡くしており、非常に感じやすい子どもであったが、重病の苦しみの中、聖母に助けを願い求め、枕元にあった聖母像が「うっとりするほど美しいほほえみ」を浮かべられるのを見、そのときから健康を回復した。

1888年、15才でカルメル会に入会。正式な修道名は「幼いイエスと尊き面影のテレーズ」であった。テレーズは聖人になりたいと望んでいた。他の聖人たちのように偉大なことはできないと知っていたが、それでも預言者、司祭、宣教師、使徒になって五大陸を駆けめぐりたかったのである。ある日、彼女は自分の使命が教会の心臓の中で愛となることであることに気がつく。彼女が見出した靈的幼子の小さな道には、何でもないような小さなことをイエスに捧げることが含まれていた。彼女は自分自身の弱さそのものをイエスに捧げ、他人に気付かれることも評価されることもない小さな事柄を行う機会を探し、静かに謙遜に奉仕した。テレーズは「神のいつくしみの愛」に身を捧げた。自分が神のあわれみに頼らなければならないこと、神のあわれみは神の正義に勝るものであることを信じていたのである。彼女は神の腕の中にいる子どものように、完全に自分を神に委ねきっていた。結核が重くなってからも、長上への従順によって、自叙伝を書き記した。最も深い信仰の暗夜を体験しながらも、喜びをもって苦しみを受け、1897年に帰天。1925年列聖。1927年、聖フランシスコ・ザビエルと並ぶ宣教の保護者に上げられ、1997年、教会博士の称号を受けた。



ほほえみの聖母像

—— 祈り ——

おお！ 私はあなたをお愛します マリアさま
あなたは ご自分を 神のはしためとおっしゃり
その謙虚さによって 神を魅了なさいます
この隠れた徳はあなたを全能なものとし
あなたの心の中に聖三位を引き寄せます
それで 愛の霊はあなたをその陰で覆い
御父と等しい御子はあなたの中で人となりました……

天国を待っている間 おお 愛する私のみ母よ
あなたと共に生き 毎日あなたに従いたいのです
み母よ あなたをながめながら
あなたの心の中に愛の淵を見つけ
喜んでその中に浸ります
あなたの母親らしいまなざしは
私の恐れをみな払いのけてくださり
私に泣くことも喜ぶことも教えてください……

イエスさまが私たちを愛してくださると同じように
マリアさま あなたは私たちを愛してくださいます
そして 私たちのために 彼から離れていることを受け入れてくださいます
愛するとはすべてを与えること 自分自身を与えること
あなたは私たちを支え続けることによって
それを証明したいと望まれました
救い主はあなたの限りない優しさを
母らしいあなたの心の秘密を ご存じでした……

もうすぐ 私は あなたに会いに美しい天国へ行きます
あなたは 私の生涯の朝にほほえみに来てくださいました
もう一度ほほえみに来てください……み母よ……
今はもう夕暮れです……！
あなたと一緒に私は苦しんできました そして 今 私は
あなたのひざの上で歌いたいのです
マリアさま なぜ あなたをお愛しているかを
そして 言い続けたいのです
私はあなたの子どもであると！

—— 「なぜ私はあなたを愛するか おおマリア！」より——

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンのあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

スペイン紀行（2008年）No.10

（グラナダ）

スペインの南に広がるアンダルシア地方は、日本人が想像する熱いスペインの国に近い。ここグラナダはその一つの町である。スペインの首都マドリッドの南に位置し、バスで5時間ぐらい走ったところにある。しかし、グラナダは内陸にあるため、冬は寒い。近くに雪の積もるシエラ・ネバダという山脈が広がり、ここからの雪解け水が豊かに注ぎ込む町でもある。そのため、昔のイスラム教徒のモーロ人がここに都を



（アルハンブラ宮殿）

造り、大きな宮殿と庭園を建設し、1492年まで使用した宮殿アルハンブラがここに残っている。その宮殿の内部は今でも、その優雅さが残っている。1492年にカトリック王国カステーリャとアラゴンがイスラム王国を滅ぼした象徴的な宮殿でもある。そのため、このカテドラルには、カステーリャ王国の女王エザベルとその夫であるアラゴン王国の王フェルナンド2世のお墓がここにある。そして、このグラナダの町に、十字架の聖ヨハネの足跡がある。

アルハンブラ宮殿の横に、現在、ロス・マルティレスという公園があるが、16世紀には、ここに男子跣足カルメル修道院があった。そして、十字架の聖ヨハネはここに1582年から1588年まで滞在していた。1578年の8月にトレドの牢獄を脱出してから、アンダルシアへ足向け、カルヴァリオ修道院という山の中の砂漠修道院に1579年まで滞在したあと、大学の町バエサに修道院を創立し、その後、このグラナダへ来ている。このグラナダに来るに当たり、カルヴァリオ修道院の近くの町ベアスにいた福者アンナ・デ・ヘススと他のカルメリット数名が、グラナダに修道院を創立しているが（1582年1月20日）、この創立に同伴する形で、十字架の聖ヨハネはグラナダに来た。

このグラナダでは、十字架の聖ヨハネは、院長として3期、アンダルシア地方の管区長代理を1期務め、常に靈性指導と修道院生活、そして、管区長代理として、常にカステーリャ地方、アンダルシア地方、そして、ポルトガルのリスボンまで、足を伸ばしている。その間に、彼の大著作、『カルメル山登攀』、『暗夜』、『靈の賛歌』、『愛の生ける炎』を書き上げている。この時期の十字架の聖ヨハネは活動の最盛期でもあった。（Fr.松田浩一 OCD）

わが家の改宗

今川 真太郎

私の父母はプロテスタントの信者でした。父は旧制第八高等学校（現：名古屋大学）に勤めていました。建物は空襲で焼けてしまい、知多半島に疎開していました。そして、八高も名古屋に新しく建ち、新しい英語の先生を探していました。ちょうど父の同僚の英語の先生で神言会のA神父様が、父と仲良くなり、当時病気で寝込んでしまった母のところに見舞いに来てA神父は、私に御教の本と家族全員にロザリオを下さいました。父が通訳して、家族全員でロザリオの祈りをしました。A神父は、帰り際に母に「こんな所にはいけない、私の知っているカトリックの病院に入院して精密検査をしてもらいなさい。」と云い、シスターとはどういう人か父に話をし、その人達が看護婦だから安心なさいと云われ、そこに入院して検査を受けました。A神父のおかげで家も官舎の中に見つかり、母も知多半島の我が家に帰ってくる事が出来ました。

A神父は、日本語を話せないで学校の帰りに父に習いに来ていましたが自分は忙しいので、神言会のG神父を紹介してくれました。それからというものは、真言会の司祭や他の修道会の司祭も日本語を習いに来ました。

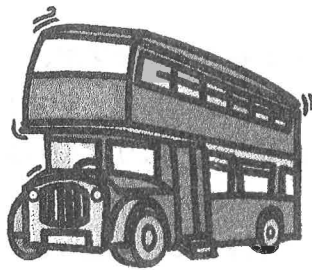
私は当時病気で寝ていました。母は枕元でA神父からもらった本を読んでくれました。そこにA神父が見えて、わからない事があるといけなから、自分の所属している教会の主任司祭を紹介してくれました、その主任司祭はカトリックの勉強をすることをすすめました。母はその教会に毎日通い洗礼を受けました。また、父もG神父から洗礼を受けました。私は寝床で母から毎日本を読んでもらいましたが、時々忙しくて読んでもう事が出来ないと、私は、本をもって母親の後を追いかけていました。それをみたG神父は、（この人は神を求めている人だな）と思い、母に「この本で勉強させなさい、私が洗礼を授けてあげましょう」と云われました。数日してG神父は「私はトラピスト修道院に入るから・・・」と話しているところにA神父様がみえたので、G神父は事の次第を話し私のことを頼み名古屋を去りました。父は私を毎日曜日南山教会の礼拝に連れて行きました。初めは中に入る前に「話をしてはいけないよ」と云われたのでそれに従いました。或る時おせんべいを見て「これ、御聖体だよ」と云ってまねて大笑いになりました。A神父は「カトリックの女の人はシスターになる事を真太郎さんも見ておいた方がいい」と云われ父と一緒に修道院のミサに与かり、帰りに近くの山で飯盒炊飯をしながら、話して下さいました。そして、その年のイースターにA神父から洗礼を受け、家中カトリックになりました。

バス談義

私は仕事の関係で、少なくとも週に4回はバスに乗り、6回は電車を利用して仕事に行きます。その道中、窓外に展開してゆく景色に見とれたり、授業の内容について考えてみたり、かれこれ1時間半近くかかる道中ですが、あまり退屈だと感じたことはありません。その中でもバスについては、車体が電车程大きくなく、扉を閉めての走行中は、一つの部屋の、サマ変わりのようなものですから、何が起こっても乗客全員が体験してしまう という、とても面白い場面や気になる場面を、共通に体験してしまうのです。ある意味では、とても家庭的、ある意味では、相手のぶしつけを、そのままいただく というイヤな感じを受けることもあります。そんな中で車内マナーを学び、弱者である子供とか、お年寄りに対する心遣いを、もっと深めるチャンスになれたらいいな としみじみ思うようになりました。といっても年齢からして、私自身が年寄りの席に腰かけてもいいハズなのですが、別に写真付きの身分証明をブラ下げているわけでもないし、そこまで切迫感もないので、より不安定なご老人には出来るだけ席を譲ることにしています。修道院の近くの「久が原出世観音」と「田園調布駅」間の距離は、スムーズにいけばたった25分そこそこの距離なのですが、今回はその間に起こった、よい景色のいくつかをご紹介します。朝の田園調布行 ●朝は、勤め人や通学生が多いのですが、ある停留所から〇〇付属校の低学年の男子生徒が、お母さんに送られて乗ってきます。バスが動き出すと このお母さん、運転手さんに向かって最敬礼をし、バスが見えなくなるまで見送っているのです。何と美しい母親の愛でしょう。私はその態度に、心の中でホロリとします。●途中で片足が悪く、ピッコをひき、杖をついて乗ってくる勤め人のおじさんがいます。動作は当然にぶい。けれども運転手さんも他の勤め人や学生の乗客たちは皆、黙って見守ってあげています。このおじさんも皆に“ありがとうございました”と喋りてゆく風景、何と美しい、暖かい雰囲気なのでしょう。夕方の田園調布発、蒲田行 ●時間になってエンジンがかかり、ブルンと車が震動し始め、今や出発という時に、駅から、ある付属小学校の2年生位の男の子が“待って下さい、待って下さい。”と叫びながら走ってきました。バスはちゃんと待ってくれました。男の子は運転手さんに“ありがとうございます”とお礼を言いました。当然といえば当然の景色かも知れませんが、大人の運転手さんも、小

学生の子供も、どちらの態度も美しいなあと思いました。●きっと一人暮らしなのでしょう、このおばあさんは。ある駅から乗ってきて、2つか3つあとの停留所で降りるのですが、腰も曲がっているのに、ショッピング・カーをかかえて乗ってくるのです。そして乗ったと思うと、まるで車内放送のように“運転手さん、〇〇駅の次で降りして下さいネ。”と大声で言い、停留所にバスがストップすると、“運転手さん、待って下さいね。…まだですよ。もう少し、……ハイ、降りましたよ。ありがとうございました”そしてバスは発車です。まるで野球の実況放送のようですが、気丈なおばあちゃんと、無言の中での運転手さんとのやり取り。美しいなあ、といつも微笑ましく思っています。私のように外出が多いと、いろいろな場面に出くわし、見たり、聞いたり、感じたり、さまざまあるのですが、実体験の社会生活の中には、タメになることが多々あるのだなあ と感謝し、賛美する次第です。

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子



今年一月号に「幻想怪奇」について書きましたが、今回はその続きということになります。

実は、たまたま教会関係の友人二人とお喋りしていて、話題が幻想怪奇に及びました。ところが彼女等は、幻想だの怪奇だのというものに、ただの一度も興味を持ったことがない、関心を寄せたことがない、それどころか気持ちが悪くて嫌だと声を合わせて云ったのです。

興味関心などは確かに個人的なものであり、人によって千差万別、それぞれ純粋に自分勝手な領分であることをよく承知しているのですが、むげに却下されそっぽを向かれて、私はちょっぴりしょげてしまいました。それでも懲りずに続きをもちだしたのは、幻想怪奇、特にゴシック小説と呼ばれるものとカトリック教会とを絡めて眺めてみようと思いつき、そしてかの友人等に私の立ち直りの姿を見せたい気持ちも、ちょっぴりこめたというわけです。

ゴシックとは、辞書などによるとゴート族という野蛮な民族の名ということですが、私たちに最も馴染み深いのはゴシック建築といわれる中世のカトリック教会の華麗な建物ではないでしょうか。ゴシック小説という呼び名は、このゴシック建築のカトリック教会にも関連するようですが、実は、建物のみならず中世のカトリック教会がもっていたものすべてが、ゴシックの雰囲気には満ち満ちているのです。

「異端」とはゴシック世界の身上でもあるのですが、この言葉はカトリック教会の「正統」に対する言葉だと云います。ゴシック小説は、カトリック教会、カトリシズムをぬきにしては語れないと云う人もいます。

荒地の断崖に建つ古い修道院、月の光に蒼く照らされる墓場。毒草もあろうかという薬草の繁み、折れ曲がる回廊の深い影。地下の密室、扉の軋み、黒い修道衣の僧の群れ。苦行の道具。野望、背徳、破戒、残酷、さかしま……。

転ずれば一方

空高く聳え立つ尖塔、朝日に輝くステントグラス。壮麗なる祭壇、祭服、楽曲、絵画。目を奪う様式の美しさ。神を仰ぐ崇高な精神、天に立ち昇る敬虔な祈り……。

一体となる明と暗、一体となる表と裏、天使と悪魔。想像力はこの眩惑に酔い「美」を求めて天翔けるのです。

日頃、私たちを規制し又保護する一般良識、社会通念の枠内から、逸脱へ、異端へ、気高い暗黒へと飛翔するのです。

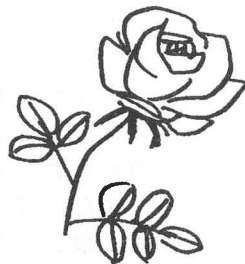
今、思い出すことがあります。私が初めて訪れた四十年前の上野毛修道院も、或る種ゴシックの雰囲気の中にありました。

高い木立の中の古めかしい由緒ある木造家屋、昼なお暗い廊下が巡り、歩けば床が鳴ったりする。淀んで沈む静かな空気。窺い知れぬ奥の院のような所から、中世さながらの修道僧がひっそりと現れる。

まるで映画を観ているようで、私には思わず身を引く異様な別世界ではありました。しかし、この違和の激しさこそが、回心へと招かれる大きなきっかけでもあったようです。合一を願ってやまない「他者」は、或る意味には常に「違和」でもあるのですから。

私たちは、さまざまな時代の出来事、歴史の中で深く苦しみ、深く学んで歩き続けているのだといえます。ゴシック建築が聳え立つ中世という時代は、実際に今では考えられないような或る暗黒、或る残酷の面を備えていて、人間のあり方自体も未熟であったことは否めないでしょう。

幻想怪奇、ゴシックロマンス、それは私にとっては道楽としての愛好がすべてではありますが、しかし、人間そのものに向き合うというのなら、そこに顕れるあらゆるものは、すべてが人間の内のこと、即ち私自身のことには違いないのです。示唆に富む側面を多く含んでいるとも云えましょう。



いのちの言葉 4月

正義が造り出すものは平和であり、正義が生み出すものは
とこしえに安らかな信頼である。

(イザヤ 32・17)

このみ言葉の出典箇所は、次のように始まります。「ついに、我々の上に霊が高い天から注がれる。荒れ野は園となり、園は森と見なされる」と。紀元前8世紀後半の預言者イザヤは、人類にとっての希望の未来を告げ知らせます。それは、新たな創造の業、新しい「庭」と呼べるもので、権利と正義が存在し、平和と信頼の生まれるところです。

こうした平和（シャローム）の新たな時代は、世界を刷新する生命力である聖霊の業です。そして、神と民との契約、民を構成する人々の間で交わされた契約の遵守から生まれる実り、とも言えるでしょう。神と民との交わりは、分かち合えないものだからです。

正義が造り出すものは平和であり、正義が生み出すものはとこしえに安らかな信頼である。

イザヤ預言者の言葉は、責任をもって誠実に社会規則を守ることの必要性を、私たちに思い起こさせてくれます。規則は、人が自己中心的な個人主義や盲目的な越権行為に陥るのを防ぎ、調和の内に他者と共生しながら、共通善に向かって働くのを助けてくれるものです。

では、正義に基づいて行動するのは、可能でしょうか。私たちが、普遍的兄弟愛の精神に従い、他者を自分の兄弟姉妹として捉え、人類を一つの家族とみなすならば、可能になるでしょう。

人類家族という考え方ができるのは、

「皆の父である方」がおられるからです。この父は、すべての人のDNAに普遍的兄弟愛を刻まれました。実際、父親が何より望むのは、子供たちが兄弟姉妹として互いに愛し合うことでしょう。

それゆえ、御父の最愛の「御子」は、すべての人の「兄」でおられます。御子は地上に来られ、人間社会の規範として相互愛を残されました。社会規則を守り、自分の務めを果たすことは、私たちの愛の表現です。

愛こそ、あらゆる行動において、最も価値ある規範であり、真の正義と平和の基盤となるものです。諸国は、国際社会の現状にいつそう適した規則を必要としています。何より求められるのは、「愛に正しい位置づけを与える人々」の存在です。正義とは、愛を最優先することであり、そうして初めて、規則にも価値が出てきます。

正義が造り出すものは平和であり、正義が生み出すものはとこしえに安らかな信頼である。

では、今月のみ言葉を私たちはどのように生きることができるでしょうか。

よりよく仕事の務めを果たし、モラルを守り、正直に生き、法律を守るよう努めることです。

また、まわりの人は、「私の心遣い、敬意、身近な支え」を必要とする「家族」だと考えましょう。

絶え間ない相互の愛（これは、すべて

に優先されるべきものです)を、日々の生活や人間関係の土台に据えるなら、私たちのもたらす正義は、神に喜ばれるものとなるでしょう。相互愛は、神に対する私たちの愛を最も完全に表現するものです。

正義が造り出すものは平和であり、正義が生み出すものはとこしえに安らかな信頼である。

イタリア南部で働くある警官の経験をご紹介します。彼は、町で最も貧しい人々と苦しみを分かち合うため、彼らの住む地域に、家族と共に引っ越す決心をしました。そこは、公共サービスや交通手段はむろんのこと、道路や電気、水道や下水道も整備されていない地域でした。

警官はこう語っています。「私は、地域住民と関わり、知り合い、話し合いを持ちながら、彼らと市当局との間に生じていた亀裂を埋めるよう努めました。やがて三千人の地域住民は、市行政との関わり方を見直すため、委員会を作り、少しずつ積極的に行動するようになりました。

こうして地域環境向上のため、かなりの額の予算が計上されるに至りました。今やそこは市のモデル地域となり、他の地域委員会代表者の養成活動の発端にもなりました。」

キアラ・ルービック
(遺稿)
(2008.4)

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

今月のみ言葉を読んで、日本に来る前にした経験を思い出しました。大学に行く途中、階段を降りたところで、寝ている男の人を見ました。その人は手を伸ばして意味の分からないことを言ってきたので、私はこわくなり、足早に通り過ぎました。振り向くと、他の人たちも皆同じようにしていました。少し先に行ったのですが、心に何かひっかかるものを感じ、戻ってみると、彼はとても苦しうに呼吸をしていました。様子を聞いてみてわかったのは、彼は病気のため、町の大きな病院で診てもらおうと田舎から出てきたけれど、ちょうど病院はストライキで閉鎖され、三日も病院の前で待っていたが、病気は悪化し、わずかなお金も使い果たし、家にも戻れない、呼吸を楽にする薬が必要、ということでした。私は彼が持っていた処方箋をもらって、薬を買に行きましたが、持ち合わせのお金では足りなかったため、大学に急ぎ、友達に事情を伝えると、何人もが協力してくれました。彼に薬をあげると、すぐに呼吸は楽になりました。友達と一緒に彼を大学の食堂につれていくことができ、家に戻るための旅費も渡すことができました。挨拶して別れた時、彼の顔に見られた平和と喜びの表情は、今でも忘れることができません。

(東京・E)

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>



十 キアラ・ルービック 帰天

フォコラーレの創立者・会長のキアラ・ルービックは、3月14日未明、イタリア ロッカディパパの自宅で、88歳の生涯を閉じました。限りない神の愛を信じ、その愛を多くの人に証し続けた人生でした。



撒き水の深く染みたる土の面に影黒黒とさつき
映れり

きぶし・ふぢ・にせあかしあの咲きつぎて五月
の恩寵天よりも来ぬ

透明な時の流れのこのほとり鉄線しろく雨に咲
きけりへ

故・クララ 密本 延枝 さまの歌集「オルゴール」より



カルメル会の企画案内



内案画金の会小々小代



上野毛靈性センター '08年5月～'09年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

5月24日～25日	大瀬高司 神父
7月26日～27日	//
11月29日～30日	//
09/ 1月24日～25日	//

2. 奉獻生活者のための黙想会

A	8月 5日 (火) 夕食～	8月14日 (木) 朝	九里 彰神父
B	8月18日 (月) 夕食～	8月27日 (水) 朝	渡辺幹夫神父
C	11月 8日 (土) 夕食～	11月17日 (月) 朝	松田浩一神父
D	12月26日 (金) 夕食～	09/1月4日 (日) 朝	中川博道神父

3. 木曜黙想会 一般黙想 (毎回木曜日 10時～16時)

6月 5日	今泉 健神父
9月 4日	今泉 健神父
11月 6日	松田浩一神父
09/ 1月 8日	松田浩一神父
3月12日	中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎週金曜日 10時～16時)

5月 9日	ベルナルド神父
10月10日	松田浩一神父
12月12日	松田浩一神父
09/ 2月13日	ベルナルド神父

5. 一般黙想会 (毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

6月21日～22日	未定
10月25日～26日	松田浩一神父
09/ 2月 7日～ 8日	未定

6. 青年黙想会 (男女) カルメル会士 神学生
10月 4日 (土) ~ 5日 (日) 15時受付

7. 召命黙想会 (男女) カルメル会士
6月28日 (土) ~ 29日 (日) ・ ・ 15時受付
11月22日 (土) 20時 ~ 24日 (月) ・ ・ (22日は夕食を済ませてご参加ください)

8. 祭日のミサに与かるために
【クリスマス】 ・ ・ チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
12月24日 (水) ~ 25日 (木) 《講話なし、夕食なし》

9. 特別黙想会 “私は神をみたい” シリーズ 伊従信子NDV
5月16日 (金) 20時 ~ 18日 (日) 16時 (16日は夕食を済ませてご参加ください)
「私は神をみたい」 ・ ・ ・ マリア
10月11日 (土) 20時 ~ 13日 (月) 16時 (11日は夕食を済ませてご参加ください)
「私は神をみたい」 ・ ・ ・ イエスの湯き

10. 待降節黙想会 中川博道神父
12月5日 (金) 20時 ~ 7日 (日) 16時 (5日は夕食を済ませてご参加ください)

11. 四旬節黙想会 松田浩一神父
09/ 3月6日 (金) 20時 ~ 8日 (日) 16時 (5日は夕食を済ませてご参加ください)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します (お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

5月 聖母の月

ロザリオの祈りを唱えましょう

ロザリオの祈りは、イエス・キリストの誕生を黙想しながら、私達一人ひとりの母である聖母マリアに心を合わせて祈る信心です。5月はマリアさまに捧げられた月です。

皆様とご一緒にロザリオの祈りを唱えたいと思いますので、ご参加下さい。

☆ 主日のミサ (7:00 8:30 10:30 18:00)

各ミサの定刻に一連を祈ります。

☆ 毎週土曜日

時間：16:30 上野毛教会聖堂

- 5月 3日(土) 喜びの神秘
- 10日(土) 光の神秘
- 17日(土) 苦しみの神秘
- 24日(土) 栄えの神秘
- 31日(土) 喜びの神秘

5月の土曜日はロザリオの祈り一環を唱えます。ご希望の方はロザリオの祈りの後、ゆるしの秘蹟、17:30から歌晩課サルヴェ・レジナに与ることが出来ます。



ロザリオとは、バラの冠という意味で、聖母マリアへの祈りひとつを一輪のバラとみなすところからきています。

特別黙想会 《私は神をみたい》

—ルルドご出現 150 周年にあたって—

「マリアの年」のマリアの月、五月に静かな祈りの時を・・・

母マリア わたしたちの希望

2008年5月16日（金曜日）20時—18日（日曜日）16時

指導：伊従信子 師（ノートルダム・ド・ヴィ）

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

フランスのルルドの貧しい少女ベルナデッタに2月11日から7月16日カルメル山の聖母の祝日まで、十八回にわたってマリアは出現されました。そしてその名を「原罪なく宿られたもの」とあかされました。教会が『無原罪のマリア』を宣言してから四年後のことでした。以来聖母が望まれたように教会が建設され、人々は祈るために全世界から集まってきました—150年間湧き続ける水に体と心の癒しを求め、母マリアに希望を託して。このご出現を記念して教皇様は今年を「マリアの年」とされました
現代社会の闇の中で、母マリアに常に希望をおくことができますように。



わたしが あなたのもとに来たのは
聖母よ わたしは あなたの子供であり
あなたがそこに居られる
ただこの事実をかみしめ
あなたとともに居り

何も言わずに あなたを眺めます

ポール・クローデル

持参するもの：新約聖書（黙想の家にも備え付けあります）

筆記用具、パジャマ

参加費： ¥12000

158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

お問合せ・お申込：

TEL.03-5706-7355

FAX.03-3704-1764

'08年5月～12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

宇治聖テレジア修道院(黙想)

1. 聖書深読

一泊二日(午後5時～午後4時)

5月17日(土)～18日(日)	渡辺幹夫神父
7月 5日(土)～ 6日(日)	新井延和神父
9月20日(土)～21日(日)	渡辺幹夫神父
11月 8日(土)～ 9日(日)	中川博道神父

1日(午前10時から午後4時)

6月21日(土)	新井延和神父
10月 4日(土)	畠 基幸神父
12月13日(土)	新井延和神父

2. 水曜黙想(午前10時～午後4時)

5月28日 聖霊の賜物	長岡幸一神父
6月11日 ご聖体	ベルナルド神父
7月23日 カルメルの祈り	新井延和神父
9月10日 神との親しさ	中川博道神父
10月 8日 アヴィラの聖テレジア	sr.パウリーナ
11月19日 三位一体のエリザベット	ベルナルド神父
12月17日 十字架の聖ヨハネ	渡辺幹夫神父

3. 待降節黙想(午後5時～午後4時)

12月6日(土)～7日(日)	新井延和神父
----------------	--------

4. 聖テレーズの黙想(午後5時～午後4時)

9月30日(火)～10月1日(水)	伊従信子(NDV)
-------------------	-----------

5. 奉献生活者のための黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（土）～11日（月）	渡辺幹夫神父
8月18日（月）～27日（水）	中川博道神父
10月18日（土）～27日（月）	渡辺幹夫神父
12月27日（土）～1月5日（月）	新井延和神父

6. 青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）

11月2日（日） カルメル宣教修道女会、渡辺幹夫神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL 0774-32-7016
FAX 0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の日静修～（2008）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「祈りを生きる～主よ、私たちに祈ることを教えてください～」としました。

このテーマを通して、魂の呼吸であるといわれる祈りを、日々の神様との出会いの中で、主のみ前に自分をおき、静かに主のみ声に耳を傾け、主と語り、主を生きる喜び、恵み、愛を思い巡らしながら、神様と交わりをより深めていく事ができるたらと願っています。

第1回	1月14日(月)*祝	日常の祈りの心、形、方法	中川博道神父(カルメル会本部)
第2回	2月16日(土)	イエスは祈られた	ベルナルド神父(宇治修道院)
第3回	3月15日(土)	苦しみの時の祈り	新井延和神父(宇治修道院)
第4回	4月12日(土)	賛美と感謝の祈り～ミサ～	今泉健神父(上野毛修道院)
第5回	5月24日(土)	ロザリオの祈り	渡辺幹夫神父(宇治修道院)
第6回	6月14日(土)	主の祈り	新井延和神父(宇治修道院)
第7回	7月21日(月)*祝	聖エリアの祈り	中川博道神父(カルメル会本部)
第8回	9月27日(土)	幼いイエスの聖テレジアと祈り	未定
第9回	10月13日(月)*祝	アヴィアの聖テレジアと祈り	Sr.パウリーナ(宣教カルメル修道女会)
第10回	11月22日(土)	十字架の聖ヨハネと祈り	九里彰神父(上野毛修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 駐車場は利用できません。

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム

- 10:00～ 祈り
- 10:40～ 講話【1】
- 12:00～12:45 昼食
- 12:50～ 赦しの秘跡または短い面接
- 13:30～ 講話【2】
- 14:45～ ミサ
- 15:30～ 茶話会
- 16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

聖書深読会ご案内 2008 年度

日曜日の福音を、読み、味わい、分かち合い、解読で学んで
福音を心に刻みます。どなたでも、自由にご参加ください。

1. 5月31日（土） 畠 基幸神父
2. 7月19日（土） 新井延和神父
3. 9月13日（土） 新井延和神父

場所；唐崎黙想の家（ノートルダム教育修道女会）

費用；1,500円（昼食代含む）

時間；午前10：00～午後4：00

住所；〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

TEL 077-579-7560

交通；JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車

琵琶湖の方へ徒歩 約13分

申し込み・問い合わせ；TEL 075-724-0771

FAX 075-781-8935 Sr.福島まで

各回、お申し込みは前日までに
電話、ファックス、または葉書にてお願いします。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

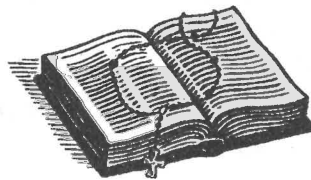
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 327 (2007年冬号)「今日の靈性」

- * 聖靈の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(8) …高橋正行
- * 【靈的講話】存在の根底に立ち返る(続) …中川博道
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (9) …フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(7) …九里 彰
愛で生きる(7) …ペトロ・アロイジオ
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット(4) 一妹への最後のことば …伊従信子
- カルメルの馨り(11) 花咲くぶどうの樹 ～在俗者会と男子会員～ …大瀬高司
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(19)
一日々の生活で信仰を生きる …伊従信子
- * リジューの聖テレーズとペトロ岐部
一本質を見定めることの大切さ …谷口正子
- 愛の断章(6) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 328 (2008年春号)「今日の靈性」

- * 聖靈の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(9) …高橋正行
- * 「イエスに香油を注いだ女」マルコ 14:3～9 …九里 彰
- * 司祭職、それはわたしにとってすべてである …J・マッカーフリー
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (10) …フェデリコ・ルイス
愛で生きる(8) …ペトロ・アロイジオ
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット(5) 一試練の中で …伊従信子
- カルメルの馨り(12) 馨るカルメルの花
～今を生きる者たちへ～ …大瀬高司
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(20) 一平凡な生活 …伊従信子
- * 1500キロを歩く …森 みさ
- 愛の断章(7) …奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

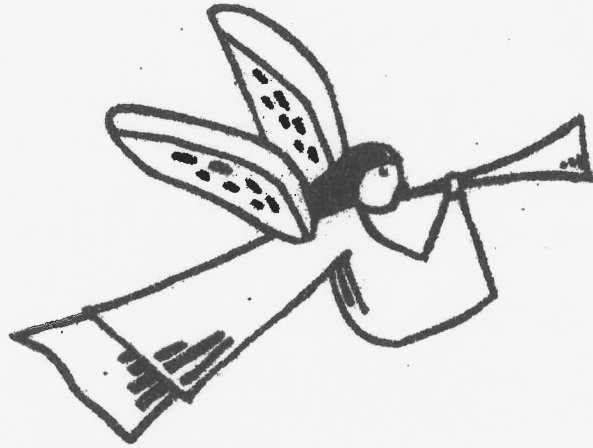
郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

内案画全の両翻



© 1971 J.C.C.

一タビ寸流交掛露山命真

聖書難イスリキ父特一ハ一てビサ一リ

△タビ一ーレ・ヲ・ヒ本ははレタレニ

トヤ・ヲ・△タビ一ーレ

会文書難真タビ一ーレ

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★2008年度★

了	P1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	Y1	08・02・10 (日)	2時から	02・16 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
了	P2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	M1	08・05・25 (日)	2時から	05・31 (土)	2時まで	盛岡・白百合
	K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N1	08・06・24 (土)	2時から	06・30 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	Y2	08・07・22 (火)	2時から	07・28 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	H1	08・08・18 (月)	2時から	08・24 (日)	2時まで	姫路仁豊野・マリア
	P3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	Y3	08・10・07 (火)	2時から	10・13 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	N2	08・11・04 (火)	2時から	11・10 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	P4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

ミニ内観のご案内

★滋賀・唐崎ノートルダム祈りの家で

二泊内観。参加費は2万円

- 了 ■2008年3月25日(火)午後1時から
27日(木)午後4時まで
- 2008年9月23日(火)午後1時から
25日(木)午後4時まで

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

一泊内観。参加費は1万円

- 了 ■2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで

★内観経験者の集い (関東)

- 2008年4月20日(日)・10月5日(日)
- 聖母訪問会・三浦修道院にて
- 連絡：高階 dhk-ichiro@y7.dion.ne.jp

★ブラリと訪れ、静かな時間・内観したい人に

- 長野県下伊那郡大鹿村 小倉家
- 電話0265・39・2778

●問い合わせ

- 唐崎修道院シスター桂川・安井
電話 077-579-7580
ファクス 077-579-3804
- 内観瞑想センター藤原
ファクス 072-802-5026



「聖霊による祈り」

祈りの集い (午前 10 時～午後 2 : 30 時)

- 了 1月 10 日 イエスは神の霊が鳩のように御自分の上に降
って来るのを御覧になった』
イエス様の洗礼、その弟子であるわたしたち
の洗礼の時受ける聖霊
- 了 2月 14 日 『初めに...神の霊が水の面を動いていた』:創
造主である聖霊
- 3月 休み
- 了 4月 10 日 『預言者を通して語られた聖霊』
- 5月 8 日 使徒の上に出て来た聖霊
- 6月 12 日 『賜物である聖霊を受けなさい』:堅信の秘蹟
で受ける聖霊
- 7月 10 日 『エピクレシス』:ミサでの聖霊の働き
- 8月 休み
- 9月 11 日 聖霊による生活:ローマ5、9-39
- 10月 9 日 『聖霊の実り』
- 11月 13 日 聖霊による祈り
- 12月 11 日 霊と花嫁とが言う:『主よ、来てください』

指導者:

フランコ・ソットコルノラ神父 (真命山院長)

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

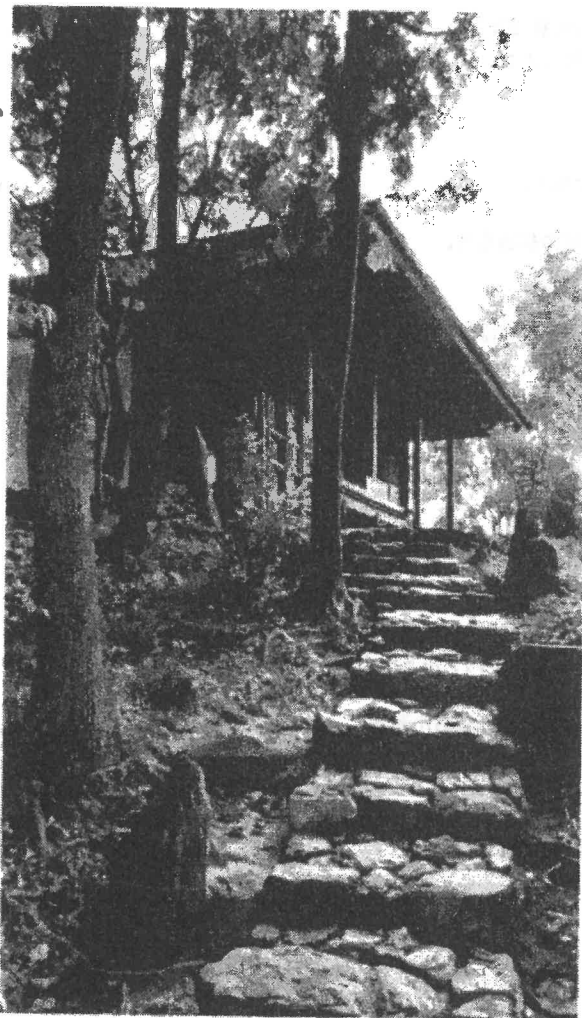
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎

いたします。(要予約)

真命山

諸宗教対話・霊性交流センター



真命山の霊性



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

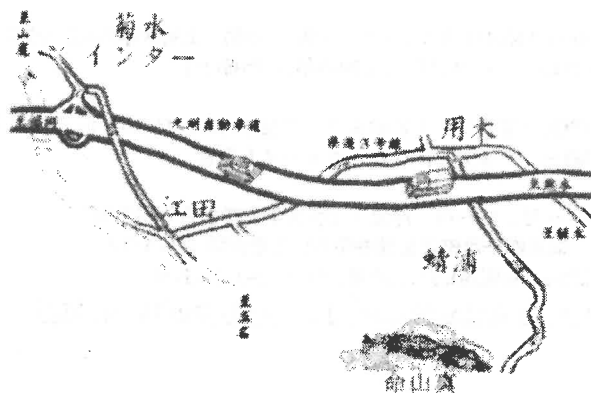
祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり



リーゼンフーバー神父 講座・集い 案内

2008～2009年

キリスト教
入門講座

金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

キリスト教
理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。

聖書研究会

木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。

坐禅会

●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

接心

● 4月28日(月)20時30分～5月5日(月)13時
6月20日(金)20時30分～22日(日)13時
8月9日(土)20時30分～16日(土)7時30分
10月29日(水)20時30分～11月3日(月)13時
2009年2月21日(土)8時30分～22日(日)15時30分 上石神井。5400円程度。
● 5月31日(土)13時～6月1日(日)16時
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時 宝塚市



ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)

黙想

●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア聖堂
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は上智大学内 Kultourハイム聖堂。
12月25日(木)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)
●通う聖操 8月23日(土)～8月31日(日) 18時～20時45分 上智大学内 Kultourハイム聖堂

祈りの集い

●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月12日、5月10日、6月7日、7月12日、8月9日、9月6日、10月11日、11月8日、12月13日、
2009年1月10日、2月7日、3月14日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂

黙想会

6月14日(土)10時～15日(日)15時、9月13日(土)10時～15日(月)14時、12月6日(土)10時～7日(日)15時(東村山)、2009年1月31日(土)10時～2月1日(日)15時、上石神井。1泊5400-5600円程度。

アガベ会

下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
4月19日(土)、6月28日(土)、10月12日(日)、2009年1月25日(日)

クリスマス会

12月20日(土) 16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時 岐部ホール。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(火) 14時～ 上智大学内 Kultourハイム聖堂

問い合わせ・
連絡先

クラウド・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2008年～2009年

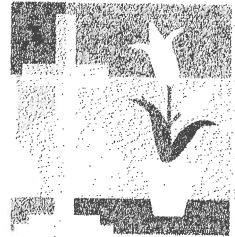
日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール

電 話 03-3263-4584

各回のテーマ

- 5/9 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/16 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/23 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 5/30 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/6 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/13 救い主の役割—人類の待望
- 6/14-15 黙想会



リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2008年～2009年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール

電 話 03-3263-4584

各回のテーマ

- 5/20 [人間] 神の似姿—理性と信仰
- 6/3 自由意志と時間—歴史における意識
- 6/14～15 黙想会
- 6/17 [神] 無限への問い—理性による神理解
- 7/1 世界の根源—神存在の確認
- 7/15 人格の目標—神経験の多様な形

祈いの集いのご案内

1 日黙想会

—イエスのみ心を味わう—

講 話 : 澤田 豊成師(聖パウロ修道会)
日 時 : 2008年5月11日(日) 10:00~4:00
対 象 : 20代30代の未婚女性
参加費 : 1000円 申し込み:5月10日(土)まで

1 日黙想会

— イエスのゆるし —

講 話 : 河合恒男神父様 (サレジオ会)
日 時 : 5月25日(日) 10:00~16:30 受付 9:30~
対 象 : 男女信徒・求道者(年齢問わず)
参加費 : 2000円(お弁当代含む) 申込み 5月18日(日)まで

問い合わせ・申し込み

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(担当: Sr.山本・Sr.峰・Sr.池田)

京王線調布駅下車徒歩13分(鶴川街道沿いマルガリタ幼稚園隣)

TEL: 0424-82-2012 FAX: 0424-82-2163

E-mail: prayer3551cnd@hotmail.com

URL: www.cnd-m.com

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2008年5月10日(土)

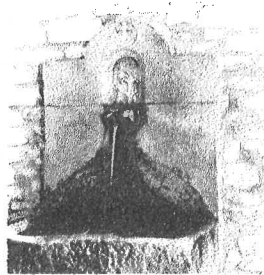
講話 伊従信子・片山はるひ

* 次回の予定 2008年6月28日(土) *

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 主日のミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel : 077-579-7580

Fax : 077-579-3804

E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。

琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8 日間の個人指導による黙想

了 ① 2007 年 12 月 27 日 (木) ~ 2008 年 1 月 4 日 (金)

② 2008 年 7 月 22 日 (火) ~ 7 月 30 日 (水)

③ 8 月 16 日 (土) ~ 8 月 24 日 (日)

④ 9 月 1 日 (月) ~ 9 月 9 日 (火)

⑤ 10 月 18 日 (土) ~ 10 月 26 日 (日)

初日は、17 時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

了 ⑥ 2008 年 1 月 18 日 (金) ~ 1 月 20 日 (日)

了 ⑦ 2 月 22 日 (金) ~ 2 月 24 日 (日)

了 ⑧ 4 月 11 日 (金) ~ 4 月 13 日 (日)

⑨ 5 月 9 日 (金) ~ 5 月 11 日 (日)

⑩ 6 月 27 日 (金) ~ 6 月 29 日 (日)

⑪ 9 月 5 日 (金) ~ 9 月 7 日 (日)

⑫ 10 月 3 日 (金) ~ 10 月 5 日 (日)

⑬ 10 月 10 日 (金) ~ 10 月 12 日 (日)

⑭ 10 月 24 日 (金) ~ 10 月 26 日 (日)

⑮ 11 月 7 日 (金) ~ 11 月 9 日 (日)

他の黙想会が行われている場合があります。

C. 自己発見から神へ I 【講話と実習】

了 ⑯ 2008年2月22日(金)～2月29日(金)

⑰ 10月1日(水)～10月8日(水)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 上記の日程以外の日、個人で黙想をなさりたい方は、
問い合わせてください。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・ブロトニヤック (リノール宣教師) 安井 昌子 (ノートルダム教育修道女)
菊池 陽子 (ノートルダム教育修道女) 松本 佳子 (ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 但し、それ以前に
満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ その他： 受付(チェックイン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。
問い合わせは、電話 または、Eメールを ご利用ください。

奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンツ宗教研究所

定価各2,100円

(本体2,000円)

四六判・上製・平均240頁

深い信仰と豊かな霊性、

そして透徹した知性が織り成す

奥村神学の全貌。

祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の霊性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の霊性」

は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。——著者による「刊行にあたって」より

奥村一郎 Okumura Ichiro ●カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

奥村一郎選集 全9巻の構成

第1巻 慈悲と隣人愛

(解説)西村恵信

第2巻 多文化に生きる宗教

(解説)ヤン・ヴァン・プレラフト

第3巻 日本の神学を求めて

(解説)小野寺功

第4巻 日本語とキリスト教

(解説)阿部仲麻呂

第5巻 現代人と宗教

(解説)鶴岡賀雄

第6巻 永遠のいのち

(解説)八木誠一

第7巻 カルメルの霊性

(解説)高園泰子

第8巻 神に向かう〈祈り〉

(解説)高橋重幸

第9巻 奉獻の道

(解説)宮本久雄



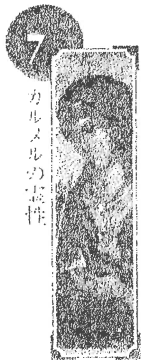
選集既刊本

第一巻 慈悲と隣人愛

《カトリックから禅へ/小事と瑣事/
禅とキリスト教における靈的修行》
解説：西村恵信

第三巻 日本の神学を求めて

《日本の神学/相互愛/「信じる」と
「愛する」/新しい掟》
解説：小野寺 功



カルメルの霊性

奥村一郎 選集

第四巻 日本語とキリスト教

《日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/
聖書と翻訳》 解説：阿部仲麻呂

第六巻 永遠の命

《嬰兒回帰/人間の栄光と悲惨/信仰と悲しみ/十字架の秘義/
人間と世界と神》 解説：八木誠一

第七巻 カルメルの霊性

《アピラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的
霊性》 解説：高園泰子

—4月末 配本

第五巻 現代人と宗教 解説：鶴岡賀雄

《現代人とキリスト教/偶像の喪失/退屈/全人教育と真人教育》

新刊紹介

K・リーゼンフーバー著

中世における理性と靈性

現代文化の世俗化が近代の合理論に由来することを顧みるならば、理性と信仰の本来の関わりを再検討するのは、今日の思想にとって切迫した課題であると言えよう。教父時代の思想を背景にして、本書は中世の豊かな靈性をその理性的基盤との関係で包括的に探り、超越への関わりを理性に固有な課題として発見するとともに、靈性を人間完成の理論と実践として根拠付ける。本書は、11世紀の初期スコラ学から盛期・後期のスコラ学と神秘思想を経て、15世紀のルネサンスに至る理性論と靈性の多様な形態を考察する。形而上学と自然学、倫理学と政治思想への反映までも解明することを通して、理性的理解と信仰に基づいた靈性の相互作用を中世思想の根源的な原動力として展開する。

今まで注目されていなかった哲学者も含め、中世の主要な思想家を主題とすることにより、本書は存在理解と自己認識、学問と信仰、神についての語りと言語の限界の緊張関係を論じるとともに、理解と信仰をめぐる現代人の問題意識に新しい視点を拓くものである。

知泉書館（東京） 670頁 9,500円+税

新刊紹介

イエスの渇き

小さきテレーズとマザー・テレサ

著者 ジャック・ゴティエ：カナダ人。詩人、神学者。オタワの聖パウロ大学教授
訳者 伊従 信子
頁数 180ページ
価格 1300円 (税込み価格 1365円)
女子パウロ会出版

● 内容紹介

テレーズとマザー・テレサを強く結んでいるものは、人々を愛したいとの熱烈な望み
イエスの渇きを潤すこと。

深く優しい主の愛にすべてをゆだねきるという「小さき道」を歩くこと、
孤独で見捨てられている最も貧しい人に愛をこめて仕えることで、
二人はそれぞれ、イエスの愛に応える。

世界中の人に敬愛され続ける二人の愛の道が、今、明らかに示された黙想書。



小さきテレーズと
マザー・テレサ
イエスの
渇き



ジャック・ゴティエ著
伊従信子訳

世界を駆ける愛
主の無限の愛を悟り、その愛にまったく自らをゆだねる人は
悲しいかな、ほんの少ししかいません。——テレーズ

イエスはあなたを愛したいと熱く望んでおられます。
あなたの愛に渇いておられるのです。——マザー・テレサ

女子パウロ会々定価(本体1,300円+税)

リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

記念御絵



* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにて
サイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、^{くのり}九里 彰神父宛にお願いいたします。住所が変わります！

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会修道院
Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOOで「カルメル霊性センター」を探索してください！！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『靈性センターニュース』ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。(これは郵送料です。)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛修道院
「靈性センターニュース事務局」

「上野毛靈性センター」への献金のお願い

なお「靈性センターニュース」は現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等の仕事しております。ご希望の方へ無料で配付しておりますが、コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道院が負担しております。読者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル靈性センターニュース

通信欄に「靈性センターニュースへの献金」とご記入ください。

* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



編集後記

先月10日、東京の上野毛から京都の宇治へ移りました。上野毛は東京では比較的、緑に恵まれた所と思いますが、宇治の修道院は、まさに大きな木々に囲まれ、緑のただ中・・・その点、ちょっと贅沢な感じがしないでもありません。というのも、「六地藏」駅のホームから見ると、修道院の一面だけが緑で、周りは住宅が密集しているからです。ところで、私の修室(二階)の窓の外には山桜が植えてあり、先日、満開となりました。すずめが何羽も遊びに(蜜を吸いに?)来ていました。早春の萌え出るような若葉の海の中で神の美しさを味わっています。神に感謝。

無数の美をまき散らしながら
これらの林をいそいで過ぎてゆかれたのです。
そして、通りすがりにごらんになったのです。
彼はみ顔を向けただけで、彼らに美をまとわせ
あとに残してゆかれたのです。

(『靈の賛歌』第五の歌)

(P. 九里)



